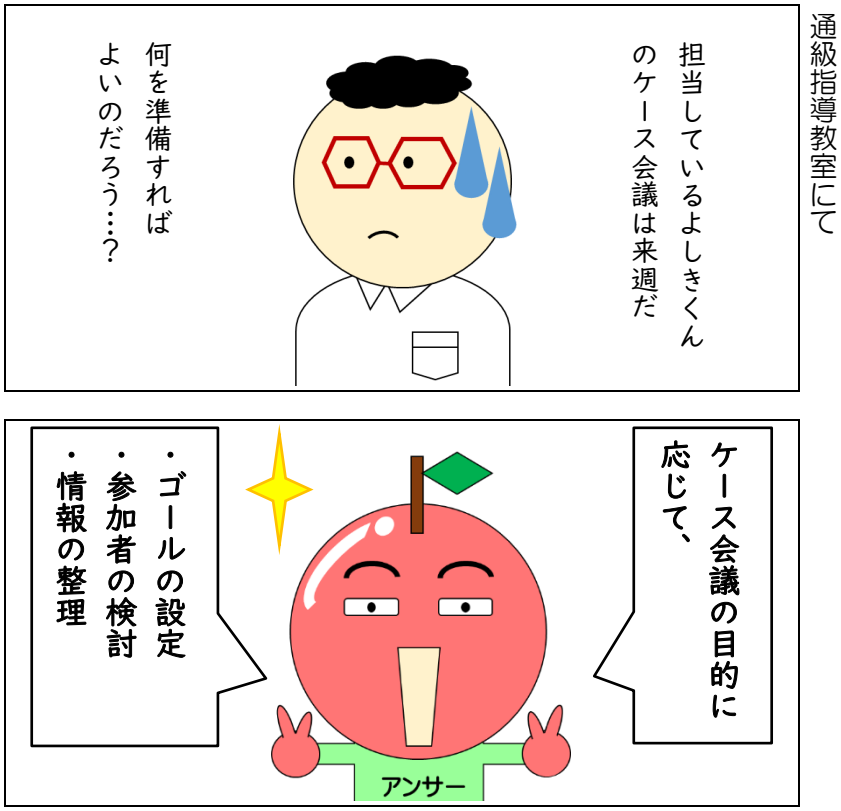
Q33. ケース会議を開くことになりました。何を準備すればよいのですか？

※新米先生は通級指導教室を担当している



ケース会議の目的に応じたゴールを設定する

ケース会議は、「事例検討会」や「ケースカンファレンス」とも言われ、解決すべき問題や課題のある事例（事象）を個別に深く検討することによって、その状況の理解を深め対応策を考える方法です。学級担任が一人で支援を行うだけではなく、関係する教職員、関係機関等がチームを組み、役割分担をすることで、支援の充実を図ることができます。

ケース会議を行うに当たり、その目的を明確にし、ゴールを設定することが大切です。対象となる子供のアセスメント（見立て）やプランニング（手立て、ケースに応じた目標と計画を立てること）、支援方針の継続・改善の検討等、その目的に応じてゴールは異なります。例えば、支援方針を決定することを目的としているケース会議であるにもかかわらず、事例の状況報告のみに留まり、具体的な支援方針が決定しなければ、必要な参加者が集まってケース会議を行う意味がありません。決められた時間内で、ケース会議の目的を達成するために、事前に参加者が目的について理解しておくことが大切です。

また、当日の参加者や進行等について、あらかじめ特別支援教育コーディネーターと打合せをしておくことも効果的に進めるためのよい手立てとなります。

目的に応じて参加者を決める

ケース会議は、定期的に行う場合と、臨時的に行う場合があります。定期的に行う場合は、目的（例：実態把握や目標、指導内容、方法、評価等の情報共有等）や時期（例：年度初め、年度終わり、長期休業中等）、回数（例：年１～２回）、時間（例：３０～６０分）があらかじめ決まっているため、関係者が集まりやすいです。しかし、臨時的に行う場合は必要に応じて行われるため、関係者全員が集まれる時間を合わせるだけでかなりの労力を費やしてしまい、関係者が一堂に会するというのは容易ではありません。ケース会議を行う目的に応じて必要な方々を招集することが支援の即時性を保つことにつながります。

定期的に行う場合

４　月：（目　的）実態把握、目標（長期、短期）、手立て、合理的配慮、評価の基準の確認
　　（参加者）特別支援教育コーディネーター、管理職、担任、養護教諭、通級担当者
夏休み：（目　的）指導の経過、対象児童生徒の変容、指導目標等の検討
　　（参加者）特別支援教育コーディネーター、担任、通級担当者
年度末：（目　的）評価、次年度の目標等の確認
　　（参加者）特別支援教育コーディネーター、管理職、担任、養護教諭、通級担当者

臨時的に行う場合

時　期：児童生徒の気になる行動や不適応問題が起きたとき
参加者：特別支援教育コーディネーター、担任、同学年の教員、養護教諭、管理職、通級担当者

参加者には、発達段階や状況等に応じて本人や保護者が参加することもあります。また、支援は長期的な視点に立って行うことから、１回で終わるのではなく、定期的、継続的に行っていくことが望ましいです。ケース会議の目的によって、参加者の構成を検討していきましょう。

事前に目的に応じた情報整理を行っておく

ケース会議の目的に応じて、事前に情報の整理をすることで、決められた時間内でゴールにたどり着くことが可能となります。目的に応じて、以下のような情報を事前に整理し、準備を進めましょう。

○ 保護者や学校、在籍学級が感じている、通級指導の効果や通級指導に求めていること
○ 本人の通級指導に対する思い
○ 通級指導の現状
　障害の特性　　学習上や生活上の困難　　現在の指導目標、指導内容、指導方法
　通級指導でできるようになったこと　　上手くいった指導　　子供が苦戦していること
　通級指導と連携して行っている在籍学級における指導　　等
○ 通級担当者が把握できる範囲の、学級集団の実態、在籍学級の様子や友人関係　　等

【文献】独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 編著（2018）：小学校・中学校通常の学級のための手引書―通級による指導を通常の学級での指導に生かす―．ジアース教育新社．
文部科学省（2010）：生徒指導提要．
文部科学省（2020）：初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド．

よく一緒に読まれている Q

Q23「個別の指導計画は、複数の教員で作成したほうがよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…。」
Q28「個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…。」

目次に戻る